

社会科学習指導案

日時 平成 28 年 9 月 24 日 (土) 第 3 校時

場所 未定

授業者 菊池 慧

1. 単元名 「日本の平和主義と世界平和への貢献」 (公民的分野)

2. 単元目標と評価

(1) 目標

現代の日本の政治と国際情勢を学習し平和主義の意義を理解し、生徒自身が主権者としての自覚を持ち、日本の政治的課題 (本単元では集団的自衛権) を主体的に考えられるようにする。

(2) 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断、表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
○日本の平和主義と世界貢献について、興味・関心を持って調べ、自分の考えをまとめて表現しようとする。 ○日本の平和主義と世界貢献について、興味・関心を持って調べ理解しようとする。政治学習や将来の政治参加への意欲を持ち考えようとしている。	○国連の主導する集団安全保障や平和維持活動に日本がどう関わるべきか、自分なりの考えをまとめて判断し、表現する。	○日本国憲法前文や第 9 条から、戦後の日本国民の決意と平和主義の具体的な内容を読み取る。様々な資料から、自分の考えをまとめる。	○日本の平和主義と国際連合の役割・課題、自衛隊の海外派遣について、基礎的な知識を理解する。 ○日本国憲法前文や第 9 条に定められた、平和主義に関する戦後の日本国民の決意を理解する。また、国際連合の役割と課題や自衛隊の海外派遣が広がってきている経緯を理解する。

3.単元について

本単元は、学習指導要領で示されている公民的分野の内容のうち、「(3) 私たちと政治 ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」と「(4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大」を合わせて構成し、日本国憲法前文や第 9 条に示される日本の平和主義、世界平和の実現に向けた国際連合の働きと課題、世界平和実現のための日本の国際貢献、を扱う。日本の平和主義については、憲法第 9 条の内容や、自衛隊と日米安全保障条約による戦後の安全保障システム、1991年の湾岸戦争以降に自衛隊のPKO参加が始まり、自衛隊の活動範囲が徐々に広がってきていること、などを扱う。世界平和については、国際連合が「集団安全保障」によって世界平和を実現させるために創設されたこと、米ソを中心とした安保理常任理事国の拒否権発動により冷戦下で集団安全保障が機能してこなかったこと、冷戦終結後の国際情勢の変化やPKOの発展、湾岸戦争において安保理決議に基づき多国籍軍が組織されたこと、などを扱う。国際連合による集団安全保障については歴史的分野と関連しており、生徒は、1学期に行った「二度の世界大戦と国際連合の創設」の授業において、19世紀の「勢力均衡」と米ウィルソン大統領らによって提唱された「集団安全保障」を学習している。

本単元の主要テーマは、「日本の安全と平和をいかに守るか」と、「世界平和の実現のために、日本はどのような役割を果たすか」というものである。昨今の集団的自衛権をめぐる議論とも共通することだが、この2つのテーマは、場合によっては相容れないものとなる可能性がある。つまり、日本一国の平和を維持するためには、自衛隊の武力行使や武力行使に関係する行動は極力避けるべきであるが、世界全体の平和を実現させるためには、国連の主導する集団安全保障において日本が武力行使や武力行使に関係する行動を求められる可能性があり、状況によっては「日本の平和と世界平和への貢献、どちらを優先するか」の選択を迫られることも考えられる、ということである。また、国連による集団安全保障や、国連憲章第51条に基づく集団的自衛権の行使（「安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置をとるまでの間、個別的な又は集団的自衛権の権利を行使（「安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置を取るまでの間、個別的または集団的自衛の権利を行使すること」が認められている）が「抑止力の強化によって日本の平和維持につながる」のか、逆に「日本の平和を脅かす」のかという議論もある。

これらのテーマについて答えを出すことが本単元の目標ではない。また、教育の政治的中立を確保する為にも（将来的なことも含め）結論は生徒一人一人の判断にゆだねられるべきものである。しかし、近い将来、これらのテーマに関連して、国政選挙での投票や憲法改正の国民投票を通して、生徒一人一人が「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者」として判断を迫られる日が来るかもしれない。その際、日本が追及すべき「平和主義」について考え、有権者として判断し行動できるようにすることが「公民的資質の基礎を養う」ことに繋がると考え、本単元の授業を展開したい。

4.指導計画 (6時間扱い)

次	時数	主な学習活動	各時間の評価規準
1	1 2 本 時	○日本の平和主義と世界平和への貢献 ・国連の主導する集団安全保障と日本の平和主義路線を把握する。 ・集団的自衛権を認めるべきか認めるべきでないかを生徒自身に考えさせる。 ・日本国憲法9条を確認し、討議する。	イ 国連の主導する集団安全保障に日本がどう関わるべきか、自分の考えを説明できる。 ウ 様々な資料を多面的に考察し、内容を理解して思考・判断に活かすことができる。
2	3	○日本国憲法前文と憲法 ・憲法前文を黙読し、感じた事、気づいたことを発表する。 ・憲法第9条を守るために先人たちはどのような工夫・努力をしたのかを知る。	ウ 憲法に込められた戦後の日本国民の決意を読み取る事が出来る。 エ 憲法前文と第9条の内容が理解できる。
3	4	○国際連合のしくみとはたらき ・国際連盟と国際連合の設立のきっかけを知り、相違点を見つける。 ・国際連合の課題はなにかを考え話し合う。	イ 国際連合の課題を考え、発表することができる。 エ 国連の仕組みや、集団安全保障・平和維持活動の内容が理解できる。
4	5	○日本を取り巻く国際情勢と自衛隊の派遣 ・自衛隊の設立と憲法9条を比較する。 ・自衛隊が海外派遣されるようになった背景と現代の国際社会の問題を理解する。	イ 自衛隊が海外へ派遣されるようになった理由を考え、説明することができる。 エ 海外派遣の経緯と内容を理解できる。
5	6	○戦争と平和 (DVD視聴) ・さとうきび畑のダイジェスト版をみてコメントカードに記入する。	イ さとうきび畑の唄を観て平和主義について考えることができる。

5.本時の学習（1／6時間目）

（1）本時の目標

- ・国連の主導する集団安全保障に日本がどう関わるべきか，資料や他者の意見を基に考え，判断し，自分の意見を表現することができる。
- ・日本の平和主義と世界平和への貢献に関心を持ち，今後の政治学習への意欲を高めることができる。

（2）評価規準

- ・資料に基づいて，論理的に意見を考え表現する事ができたか。（イ 思考・判断）
- ・日本の平和主義，世界平和の共存について興味・関心を持って授業に取り組んでいるか。（ア 関心・意欲・態度）

（3）準備

- ・ワークシート
- ・漫画資料①②
- ・湾岸戦争資料
- ・首相会見
- ・憲法第9条
- ・アルカイダ声明
- ・タイマー
- ・ホワイトボード，マーカー

（4）展開

過程 (時配)	教師の指導	児童の活動	☆指導上の留意点 ★評価
事象提示 (5)	○導入資料（写真）提示 「本日みんなには日本そして国際社会の平和について考えてもらいます。最初に戦争とはいかなるものか目に焼き付けてください。」 「この写真を観てどのように感じましたか？」	○黒板前に集合して写真を観る。 ・戦争は悲しみしかない。 ・何の罪もない子が被害を受けて悲しい。 ・幸福のために戦争は絶対起こしてはいけないし，今後もやってはいけない。	☆視覚に訴えかけながら，問題点を整理し，単元の学習問題と本時の学習問題を想起させる。

課題提示	○単元の学習問題を提示		
	どうすれば「日本の平和主義」と「世界平和への貢献」を実現させることができるのか。		
(2)	○用語の確認 「国連が掲げる自衛権には二種類ありますが分かる人いますか？」	・個別的自衛権 ・集団的自衛権	
自分の考えを記入	○本時の課題提示	○課題を把握する	
(3)	あなたが総理大臣だとしたら、自衛隊が海外で武力行使することを認めるべきか、認めるべきではないか。		
深める	○二つの意見を揺さぶる資料を配布 ○自分の意見を記入		
	「いま配った資料は日本が戦争を出来る国になるかもしれないといった資料と反対に日本が他の国の犠牲を基に平和を維持しているといった内容です。これをみてどう思いましたか」	・絶対に戦争はしたくないと思ったけど、他の国の軍人が犠牲になっているんだ。 ・日本は尊い犠牲の下、平和主義を掲げているから無駄にはいけない。 ・自衛隊だけ犠牲になるのは悲しい。	☆教師として自分の意見は決して入れずに二つの意見がわれるよう班を巡回する。
(20)	○グループ討議① 「グループ内で認めるべきか、認めるべきでないか、その理由も含めて意見を交換してみましよう。」	〈予想される意見〉 [認めるべき] ・他国の人々を皆殺しにできない。 ・世界の平和は世界のみんなで作るべき。 ・日本の孤立を防ぎ抑止力を高める。	☆意見がまとまったらホワイトボードに意見を記入する。
	○グループ討議② →認めるべきを選択している生徒を入れ替えさらに深めさせる。	[認めるべきではない] ・憲法9条の戦争放棄を矛盾する。	★自分の考えを話させているか。(観察)【思考・判断・表現】

<p>(10)</p> <p>まとめ あげる (5)</p>	<p>「この問題は結論がでる問題ではないですが、今日はどうしていくか結論をだしてもらいます。納得するまで意見を交換してください。」</p> <p>○発表 「各グループの意見を全体で確認しよう。」</p> <p>○最終判断をワークシートに記入。 「一連の話し合いで気づいた事、感想などを書きましょう。」 「話し合ってみてどのように感じましたか？また、意見を交換する事でどんな変化がありましたか。」</p> <p>○資料提示 ・安保法案デモ ・参院選投票率 (52.7%) 「今の日本、これからの日本について、どう考えますか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の戦争に日本が巻き込まれる。 ・兵士を出すこと以外で貢献すべき <p>○各グループの代表に、討議の様子や代表的な意見を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は絶対に戦争をしたくないと思っていたけど、他国のことを考えると難しいと思った。 ・海外の人が犠牲になっているかもしれないけどやっぱり戦争はしたくない。 ・戦争がなくなる時代は来なかもしれないと思った。 ・抑止力も重要かもしれない。 ・選挙にいかないと重要な議題が知らないうちに決まってしまう事もあり得ると思った。 ・若者が一生懸命政治に参加する事によってもっといい政治が作れるかもしれない。 	<p>☆仮定の議題で正解はなく、個人の考え方によるものだということに触れておく。</p>
--	--	---	--

(5) 板書計画

〔日本の平和主義と世界平和への貢献〕 ◎平和主義と世界平和への貢献をどう実現させるか。

あなたが総理大臣だとしたら、自衛隊が海外で武力行使することを認めるべきか、
認めるべきでないか。

写真

戦後の少年

ホワイトボード

ホワイトボード

ホワイトボード

写真

0戦

写真

安保反対デモ

写真

平和への祈り

ホワイトボード

ホワイトボード

ホワイトボード

写真

戦車

52・7%

(6) 資料